



エビさんたくさん釣れたよ エコアくまもとでエビ釣り体験

エコアくまもと(下坂下)は7月28日、同施設の貯水池でエビ釣り体験を開催しました。

この日は同施設の職員が講師として、施設の紹介や施設見学、エビ釣りのコツなどを教えました。当日は県内各地から午前と午後合わせて40組の家族が参加。強い日差しの中、エサのいりこをつけた釣り竿で辛抱強く待ち、エビを釣りあげていきました。釣り上げたエビは各家庭で飼育することができ、持ち帰る参加者が多くいました。

山鹿市からの参加者は「こんなにメダカやエビがいるとは思わなかった。10匹以上釣れてうれしい。自然に触れ、夏の思い出になった」と笑顔で語りました。



関川の生態を観察

関川で水生生物教室

関川・諫訪川流域会議は7月27日、関川中流域の岩本橋下で水生生物教室を開催しました。

この日はエコアくまもと(下坂下)に勤めている那須義則さんを講師に迎え、荒尾市・大牟田市・南関町の小学生約30人が参加。川石についての生物や水を採取し、公民館で水質を調べる実験や評価を行い、水生生物を観察しました。コガタシマトビケラなどが見られた関川は、親しめる水環境という評価でした。

大牟田市からの参加者は「子どもが今年も参加したいと言い、参加。こんなに専門的に観察できるのだと知って驚いた。子どもだが私もいい勉強になった」と語りました。

犯罪や非行のない地域社会へ

社会を明るくする運動推進大会および青少年育成推進大会

町社会を明るくする運動推進実施委員会と町教委は8月5日、「社会を明るくする運動推進大会および青少年育成推進大会」を町公民館で開催しました。

大会は、ひまわり幼稚園児のトップ丸体操で始まり、元気よく踊る姿に会場には笑顔が。その後、青少年育成作文と標語の優秀作品発表と表彰が行われました。

青少年育成推進連絡協議会会長の谷口教育長は「作文も標語も、読む人の心を惹きつける豊かな作品だった。その気持ちを忘れず成長し、今後の町や県、国を引っ張っていってください」と講評しました。

終盤には、南関中吹奏楽部の演奏が披露され、会場は和やかな雰囲気に包まれました。



親子で楽しくクッキング

うから館で子どもクッキング教室

町は7月29日、子どもクッキング教室を南の関うから館で開催。この日は小学生と保護者29人が参加しました。

この教室は、町主催で毎年開催。町保健センターに勤める管理栄養士の松永麻理さんの指導のもと、食生活改善推進員協議会の推進員5人を招き、ボロネーゼ風パスタや焼き春巻きを作りました。子どもたちは推進員や保護者に教えてもらいながら、楽しく料理をしていました。また、玉ねぎを切るときに涙が止まらず、苦戦しながら料理を作る参加者も見られました。

参加者からは「作るのは大変だったけど、自分で作った料理はとても美味しかった」「今度、お家で作ろうと思う」との声が聞かれました。



▲笑顔を見せる発表者たち



▲左から猿渡さん、谷口教育長、中島さん

本の世界へようこそ

南関町童話発表大会

南関町童話発表大会が町公民館で開催され、町内4小学校の代表12人が低学年の部と高学年の部に分かれて発表しました。

児童たちは緊張する様子を見せることなく、練習の成果を發揮し堂々と発表。やさしい語り口調や感情を込めた表現で、来場者は本の世界に引き込まれていきました。また、当日はおはなしの会「あすなろ」による怖い話や南関にまつわる大蛇の話も行われました。

町立図書館協議会委員で審査委員長の平山浩治校長は「人前で発表したことはこれから的人生にとって大切なこと。これからも、たくさんの本に触れて心豊かになってください」と講評しました。

優秀賞には、低学年の部が「だいくとおにろく」を発表した猿渡遙斗さん(一小2年)、高学年の部が「みなまた、よみがえる」を発表した中島維吹さん(二小6年)が選ばれました。2人は南関町の代表として、8月4日に玉名市の横島町公民館で開催された、玉名地方童話発表大会に出場しました。



町の歴史や文化を大切に

子ども伝楽人ボランティア活動体験

南関宿場町伝楽人(宮尾洋一会長)は7月25日と26日、南関御茶屋跡で「子ども伝楽人ボランティア活動体験」を開催しました。

これは、小学生の夏休み期間に毎年行われ、子どもたちが町の歴史や文化に触れて文化財を大切にする心を育むことを目的に開催。2日間で合わせて27人が参加しました。同施設の雨戸明けや掃除や、水撒きやお抹茶のお点前を行い、伝楽人の普段の活動の体験を行いました。子どもたちは汗だくになりながら丁寧に掃除などを行いました。

また、伝楽人による文化財クイズや歴史・文化財学習も行われ、子どもたちは真剣な表情で話を聞いていました。



自己ベストで予選突破を

熊本信愛女学院高 原賀藍実さん

熊本信愛女学院2年の原賀藍実さん(豊永)が7月23日、佐藤町長を表敬訪問し、800メートルおよび1500メートルでのインターハイ出場を報告しました。

原賀さんは6月1日から行われた県大会の800メートルで優勝、1500メートルで3位に輝き、同月14日から行われた南九州大会で両競技5位入賞し、インターハイ出場権をつかみました。

佐藤町長は「怪我に注意して自己ベストを更新できるよう頑張ってください」と激励。原賀さんは「自己ベストを出して予選突破できるように頑張りたい」と気合十分で意気込みを語りました。8月2日から6日まで三重県で開催されたインターハイでは、自己ベストを更新し大奮闘されました。